



卓 話

ホストクラブとなって銀座東急ホテルで行われた『関東地方インターシティミーティング』がIMIに当る。

1986年版英文の手続要覧には次のように記載されている。『Encourage Each Club to Participate in at least one intercity meeting during each year』

「INTER CITY MEETINGとは」

IM実行委員会委員長

鯉江 園子会員

IMとは、近隣都市の複数のクラブで実施する都市連合会であり、その目的は第一に会員相互の親睦と面識を広め、会員にロータリー情報を伝えると共に、立派なロータリアンになってもらうため、経験豊かなリーダーの下で、ロータリーの奉仕の理想を勉強する会合の事です。



【起源と歴史】

1912年にサンフランシスコRCが、その前年に誕生させた子クラブのオークランドRCとの親睦を温めるために開いたのがその始まりである。この会合が成功裏に終わったので再度開催された。当初『Transbay Love Feast』と名づけられた。

1914年、この種の会合は国際ロータリー連合会（国際ロータリーの前身）から正式に認められた。

IMは文字通り親睦・友情を主体とする会合で、本来数地区の会長・幹事を集めて重点的にロータリー運動の督励と討議の充実を目標としたものであった。その中にはフォーラムという意味合いも含まれている。外国でのIMはあまり堅苦しい規則もなく、親しい仲間どうしの数クラブが集まり、合同例会を開き、親睦と日頃の疎遠を埋め合う友情交換の場であるという意味合いがあった。

【ICGFからIGF、そしてIMIに】

1949年のRI理事会の提案により、1951年から日本で実施された。RI第60地区数クラブが集まり熱海で開催された。

当初ICGF(Intercity & Club General Forum)と呼ばれたが、1976年からIGF(Intercity General Forum)の名称に変わった。初期にはそのリーダーは連合会会長によって任命され、分区レベルのフォーラムとしては会議費・旅費等もRIから支弁されていた。

その後RI理事会より経費節減を理由に、地区開催の『一日講習会 One-day Institute:一日特別研究会』とするよう奨励があった。

1968年（昭和43年）3月5日東ヶ崎潔(Kiyoshi Togasaki)次期RI会長の就任により召集され、東京RCが

【RIの変遷】

- 1949-50 RI理事会 『ロータリーの情報及び教育を目的として都市連合ゼネラルフォーラムは実際的に且つ有効な手段であり、ロータリークラブの集団がその集団の中心地に全会員を招いて、RI新・旧役員が司会を努め、午後か夜の会合でロータリーの一般性格や計画について研究討議する会合を開くことを奨励する』
- 1957-58 RI理事会 『RI会長指名のリーダーによる完全なプログラムを実施するだけの出席が期待できない場合には、地区ガバナーは都市連合ゼネラルフォーラムを夜又は午後或いは夜の集会にして、リーダーを地区又は近隣地区から求め、RIに費用をかけずに行うよう奨励する』
- 1968年にはRI理事会によってルールが改訂され、RIの財源的理由からプログラムより除外された。但しRI理事会から『ICGFを開催する可否かはガバナーの裁量に委ねる。RIから経費は支弁しない』との通達があった。
- 1981年版手続要覧には次の様に記載されている。
『ロータリーの友情及び研究のための手段として、ロータリーの一般性格や計画案についての研究討議をするフォーラムである』
 - ▲1981版以後の手続要覧にはIGFの記載はない。
 - ▲IGFは広義のIMIに包含されると解釈される。
 - ▲1991年 日本全地区でIGFからIMIに変更された。

☆第61区ガバナー挨拶（ロータリー文庫より抜粋）

第2650地区1954～1955年度ガバナー 小菅 金造氏
当岡山Cの御熱心なお世話によって、このような立派な会場で、インターシティ・フォーラムを開くことができたことを深く感謝いたします。

インターシティ・フォーラムの開催の仕方について、本部の方針が、数ヶ月前から変わってきたことを報じています。それはアメリカでは、インターシティ・フォーラムはなるべく少しのCを集めて8～10Cで開くがよい、とっています。アメリカでは1都市に10Cもあるところがあって、極く狭い区域で、日帰りが可能なところのCばかりが集まることと、ホストCは日時に十分な期間をお

いて日程をつくり、参加Cには親しく出向いて例会に出席して、参加を要望するがよい、というので、まるで地区大会のようである。特に新会員に対する認識を深めるためには絶好の機会であるから、新会員全部出席するようにつとめよ、というのであります。

しかし日本では交通機関と道路の関係で、日帰りということは困難な場合が多いので、実行至難なものもあるようです。ともかくこの会のやり方も今月を限りとして来年からはなるべく本部の方針に随って行いたいと思います。即ち新会員は全部、旧会員もできるだけ出席することにしたいと思います。

インターシティ・フォーラムは演説会ではないので、会員の演説はしないことになっている。また長いおしゃべりも禁ぜられており、多くの人に発言を願って、しか

も話のポイントだけをしていただくのが本意となっています。リーダー自ら話してはいけない。会員の話を引出す役目であると、アメリカからの指導方針が示しています。時間は開会時間と閉会時間を合わせるほかは、中間では自由に融通しあってゆくことになっています。アメリカでは誰が何分間というような細かいことはプログラムには書かないで、楽屋裏だけで予定を組んでおく。日本ではとかく固くるしくなりがちですから、なるべくやわらかく融通無碍に議事を進行願いたいと思います。

* 資料提供 RID2580 2007～2008年度東分区分ガバナー補佐 石橋正男 氏(東京東江戸川IRC)